

館蔵
秋の優品展

唐草文の美

2026年9月5日土—10月12日月・祝

●協賛＝東急グループ

- 休館日＝毎月曜日(9月21日、10月12日は開館)、9月24日[木]
- 開館時間＝午前10時—午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 入館料＝一般1100円/高・大学生800円/中学生以下無料

MASTERPIECES OF ASIAN ART FROM THE GOTOH MUSEUM COLLECTION:
BRONZE MIRROR, CERAMICS, TEXTILES AND CALLIGRAPHY.

5th September through 12th October, 2026.

Closed every Monday (21st September and 12th October open), 24th September.

Museum hours 10:00A.M.-5:00P.M.

Five minutes walk from Kaminoge station, Tokyu Ōimachi line.

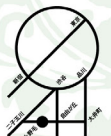
THE GOTOH MUSEUM

URL=<https://www.gotoh-museum.or.jp/>



五島美術館

東急・大井町線「野毛」駅下車徒歩五分 電話〇二・三七・三〇・六六二



●ギャラリー・トリック等イベントの開催につきましては、当館ホームページにてお知らせいたします。
●会期中一部展示替があります。また、当館には常設展示はございません。
●展示替のため休館日 〇二六年十月十三日(火)・十月二十六日(日)
●次回展示Ⅱ「特別展Ⅱ室町ごころの風景 光り輝く四季と連歌懐紙の美」
二〇二六年十月二十七日(火)・十一月六日(日)
●お車でのご来館が必要な方以外は、公共交通機関をご利用ください。
●お問い合わせは、当館の電話 〇二・五五・四一・八六〇〇



◆特別展示Ⅱ「国玉 紫式部日記絵巻 五島本第一・二・三巻」
二〇二六年十月三日(土)―十月十二日(月・祝)

唐草文は、植物の茎や蔓や葉などが絡み合った文様のひとつです。古来より繁栄・長寿を象徴する装飾文様として用いられ、ときに花や実などを組み合わせて多彩な変化を遂げました。五島美術館の収蔵品から、中国の古鏡・陶磁器・染織・朝鮮半島の金工品、平安時代の古筆の料紙装飾など、さまざまなジャンルの作品に施された唐草文をお楽しみください(会期中一部展示替あり)。

PRESS
RELEASE

唐草文は、植物の茎や蔓や葉などが絡み合った文様のひとつです。古来より繁栄・長寿を象徴する装飾文様として用いられ、ときに花や実などを組み合わせて多彩な変化を遂げました。五島美術館の収蔵品から、中国の古鏡・陶磁器・染織・朝鮮半島の金工品、平安時代の古筆の料紙装飾など、さまざまなジャンルの作品に施された唐草文をお楽しみください(会期中一部展示替あり)。

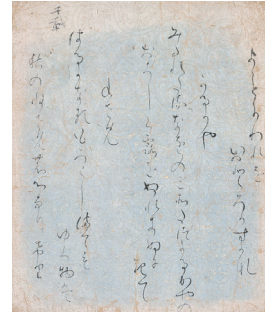
 五島美術館

今回の展覧会のおすすめ作品



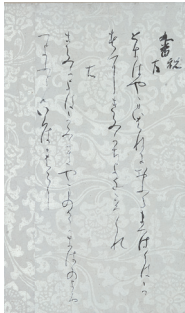
重要美術品 **〔貼銀鍍金〕双鳳俊狻天馬紋八稜鏡**
金・銀・青銅製／一面 径25.9cm 重量2294.0g
唐時代・8世紀 五島美術館蔵

八稜鏡は、縁の八つの花卉形の先端が尖っている鏡です。本鏡は青銅製の鏡の鏡背面（裏面）に、紋様を打ち出した銀製の板を貼り付け、さらに鍍金（メッキ）を施した手の込んだものです。紋様は、鈕を中心に、《唐草紋》を背景として二羽の鳳凰と俊狻、天馬が旋回するように配され、紋様間は魚子紋が充填された、盛唐時代の気分をまとった大変華麗な鏡です。



端白切 伝 **大貳三位筆**
彩箋墨書／一幅 縦20.1cm 横16.9cm
平安時代・11世紀 五島美術館蔵

平安時代の王朝貴族のあいだでは、中国からの舶来品が珍重されました。本品は北宋時代に制作された装飾料紙で、薄藍に色付けした具引きの上に、《双鳳凰二重蔓唐草文》を雲母摺りしています。もとは、大貳三位（紫式部の娘 1000?～82?）の家集『大貳三位集』を書写した冊子本でしたが、江戸時代には古筆の名物切として知られるようになりました。名称は料紙四方の端が褪せて白くみえることに由来します。



松籟切 伝 **藤原行成筆**
彩箋墨書／一幅 縦25.8cm 横15.2cm
平安時代・12世紀 五島美術館蔵

平安時代・12世紀頃には、中国の装飾料紙を模倣して、日本製の華麗な料紙が制作されるようになりました。本品は、具引きの上に《大鉄扇唐草文》を雲母摺りで施しています。もとは、藤原顕季（1055～1123）家で催した「十番歌合」を清書した巻物で、昭和26年（1951）に分割されました。名称は、旧蔵者である三井南家・三井高弘（1849～1919）の号「松籟」に由来しています。



重要美術品 **白釉黒花牡丹文梅瓶 磁州窯**
陶器／一口 高33.0cm 口径7.2cm 胴径20.7cm 底径8.8-8.7cm
宋時代・12世紀 五島美術館蔵

艶やかな大輪の牡丹と大ぶりの葉で構成された《牡丹唐草文》を胴部に大きく表した、白黒の対比が明快な優品です。胎土が灰色のため、白土や白泥などを薄く掛けて白化粧を施し、その上から鉄絵具を全面に塗って文様を線彫りし、地にあたる部分の鉄絵具のみを掻き落として白化粧を出し、透明釉を掛けて焼成しています。磁州窯は河北省邯鄲市の観台鎮や磁県一帯を中心とした中国北部の民窯です。



青花唐草文輪花皿 景德鎮窯
磁器／一枚 高5.8cm 口径33.8cm 底径22.3cm
明時代・15世紀 五島美術館蔵

青花は、白い素地の上にコバルトを含む顔料で絵付けし、その上に透明釉を掛けて焼成したやきもの。本品は、縁に規則的な稜を付け、全体を12弁の花びらが開いたようにかたどった深めの皿です。見込みには菊や蓮など様々な種類の花を組み合わせた《花唐草》を描き、その周囲には横から見た花を蔓が囲む《花唐草》、縁には単純な線描の《唐草》を描いています。宣徳年間（1426～35）の景德鎮窯の製品。



〈左〉紺地龍牡丹唐草文金欄仕覆 清時代・17～18世紀
〈右〉金地二重蔓牡丹唐草文金欄仕覆 明時代・14～15世紀

〈左〉仕覆は主に茶入や茶碗を収納する袋です。特に名物は舶来の織物が用いられ、仕覆も鑑賞されてきました。本品は紺地を背景に金色の龍が《牡丹唐草》に紛れるように躍動しています。龍文は出世を、唐草は家の繁栄を願う吉祥文様といわれています。
〈右〉大振りの牡丹花と二重の蔓が印象的な《牡丹唐草》の仕覆です。金地金欄は文様の輪郭以外は金色の箔糸で覆い尽くされた豪華な絹織物です。金欄は元時代・14世紀頃から宮廷用に織られ、日本では高僧の袈裟や権力者の服飾となつて珍重されました。
※ともに瀬戸肩衝茶入 銘 神無月（江戸時代・17世紀 五島美術館蔵）付属

主な展示予定品（会期中一部展示替があります）

＊展示予定期間〈前期〉＝9月5日[土]－9月23日[水・祝]／展示予定期間〈後期〉＝9月25日[金]－10月12日[月・祝]

《彫刻》		
金銅仏坐像	北魏時代・和平五年(464)	五島美術館蔵
《古鏡》		
狻猊葡萄鏡	唐時代・7世紀	五島美術館蔵
重要美術品　[貼銀鍍金]双鳳狻猊天馬紋八稜鏡	唐時代・8世紀	五島美術館蔵
《拓本》		
興福寺断碑　碑側拓本	原碑　唐時代・開元九年(721)頃	個人蔵
大智禪師碑　碑側拓本	原碑　唐時代・開元二十四年(736)頃	個人蔵
《料紙》		
端白切　伝 大貳三位筆	平安時代・11世紀	五島美術館蔵
重要美術品　唐紙和漢朗詠集切　伝 藤原行成筆	平安時代・12世紀	五島美術館蔵
松籟切　伝 藤原行成筆	平安時代・12世紀	五島美術館蔵
《古写経》		
重要美術品　紺紙金銀交書俱舎論　卷第二十三(中尊寺経) 表紙	平安時代・12世紀	五島美術館蔵
《陶磁》		
緑釉牡丹文鳳首瓶　缸瓦窯	遼時代・11世紀	五島美術館蔵
重要美術品　白釉黒花牡丹文梅瓶　磁州窯	宋時代・12世紀	五島美術館蔵
青花唐草文梅瓶　景德鎮窯	明時代・15世紀	五島美術館蔵
青花唐草文輪花皿　景德鎮窯	明時代・15世紀	五島美術館蔵
青花唐草文鉢　大明宣徳年製銘　景德鎮官窯	明時代・15世紀	五島美術館蔵
五彩人物唐草文盤(古赤絵) 景德鎮窯	明時代・16世紀	五島美術館蔵
重要美術品　五彩寿字花鳥文瓢形瓶(金襴手) 景德鎮窯	明時代・16世紀	五島美術館蔵
祥瑞香合	明時代・17世紀	五島美術館蔵
色絵山水文大皿(青手) 古九谷様式	江戸時代・17世紀	五島美術館蔵
《金工》		
青銅銀象嵌薄柳水禽文浄瓶	高麗時代・13～14世紀	五島美術館蔵
《染織》		
金地二重蔓牡丹唐草文金襴仕覆(瀬戸肩衝茶入　銘 神無月　付属)	明時代・14～15世紀	五島美術館蔵
紺地龍牡丹唐草文金襴仕覆(瀬戸肩衝茶入　銘 神無月　付属)	清時代・17～18世紀	五島美術館蔵
大黒屋金襴仕覆(瀬戸肩衝茶入　銘 月迫　付属)	明時代・14～15世紀	五島美術館蔵
重要文化財　了庵清欲墨跡　餞別偈	〈前期展示〉　元時代・天暦二年(1329)	五島美術館蔵
重要文化財　熊野懷紙　後鳥羽天皇筆	〈前期展示〉　鎌倉時代・正治二年(1200)	五島美術館蔵
時代不同歌合絵　伊勢・後京極良経像	鎌倉時代・14世紀	五島美術館蔵
《漆工》		
牡丹唐草御櫛台	江戸～明治時代・18～19世紀	五島美術館蔵
梨地牡丹唐草模様御椀重	江戸～明治時代・18～19世紀	五島美術館蔵
《紫式部関連特集展示》		
重要文化財　金峯山埋経　藤原道長筆	〈巻替あり〉　平安時代・長徳四年(998)・寛弘四年(1007)	五島美術館蔵
佚名本朝佳句切　藤原行成筆	平安時代・10世紀	個人蔵
国宝　紫式部日記絵巻　五島本第一・二・三段	〈展示予定＝2026年10月3日[土]～10月12日[月・祝]〉　鎌倉時代・13世紀	五島美術館蔵

[館蔵] 秋の優品展 唐草文の美

MASTERPIECES OF ASIAN ART FROM THE GOTOH MUSEUM COLLECTION:
BRONZE MIRROR, CERAMICS, TEXTILES AND CALLIGRAPHY.

2026年9月5日[土]—10月12日[月・祝]

■協賛＝東急グループ

■休館日＝毎月曜日(9月21日、10月12日は開館)、9月24日[木]

■開館時間＝午前10時—午後5時(入館は午後4時30分まで)

■入館料＝一般1100円／高・大学生800円／中学生以下無料

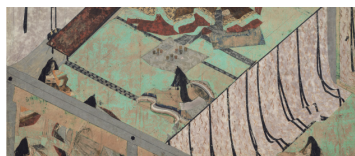
■交通＝東急大井町線(各駅停車)「上野毛駅」(かみのげ)下車徒歩5分



重要美術品 紺紙金銀交書俱舎論
卷第二十三(中尊寺経) 表紙



色絵山水文大皿(青手) 古九谷様式



特別展示

【国宝】紫式部日記絵巻
五島本第一・二・三段

2026年10月3日[土]—10月12日[月・祝]
(10月5日[月]は休館日)

<ギャラリートーク>

当館学芸員によるスライドを交えた展示作品に関わる解説

五島美術館別館講堂 当日入館者聴講無料 椅子席180名先着順

当日の正午より受講整理券を配布します。

「唐草文の美展について」

9月17日[木]午後2時—3時頃(開場・受付は午後1時30分)

「紫式部日記絵巻について」*10月12日と同一内容

10月7日[水]午後2時—3時頃(開場・受付は午後1時30分)

「紫式部日記絵巻について」*10月7日と同一内容

10月12日[月・祝]午後2時—3時頃(開場・受付は午後1時30分)

■会期中一部展示替があります。また、当館には常設展示はございません。

■展示替のため休館＝2026年10月13日[火]—10月26日[月]

■次回展示＝[特別展]室町ごころの風景—光り輝く四季と連歌懐紙の美—
2026年10月27日[火]—12月6日[日]

公益財団法人 五島美術館

〒158-8510 東京都世田谷区上野毛3-9-25 TEL 050-5541-8600(ハローダイヤル)

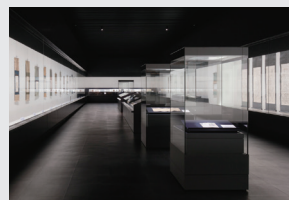
<https://www.gotoh-museum.or.jp/> (五島美術館ホームページ)

五島美術館 (ごとうびじゅつかん)

五島美術館は、東急の元会長五島慶太(ごとうけいた 1882～1959)が、半生をかけて収集した日本・東洋の古美術品を根幹に、1960年に開館しました。展示作品は展覧会ごとに変わり、コレクションから各分野の代表作品を紹介、特別展では毎回特色あるテーマを企画しています。2011年には大東急記念文庫と合併し、翌年4月1日より「公益財団法人五島美術館」として歩みを進めています。2017年、本館と庭園内の茶室「富士見亭」「古経楼」が、国の登録有形文化財(建造物)に登録されました。



本館・中庭 (photo by Shigeo Ogawa)



展示室1 (photo by Shigeo Ogawa)



展示室2 (photo by Shigeo Ogawa)

- 開館時間＝午前10時—午後5時(入館受付は午後4時30分まで)
- 展覧会と展覧会の間は展示替休館となります。
- 入館料には入園料を含みます。
- 障害者手帳をお持ちの方、ならびに介助者の方1名は200円引。
- 入園のみ(展覧会をご覧にならない場合)は1人300円(中学生以下無料)。
- 団体(20名以上1人900円/特別展は別途)は、受け入れを休止することがあります。

交通

東急大井町線(各駅停車)「上野毛駅」(かみのげ)下車徒歩約5分

- 「渋谷駅」から
東急田園都市線→「二子玉川駅」→東急大井町線(各駅停車)→「上野毛駅」
東急東横線→「自由が丘駅」→東急大井町線(各駅停車)→「上野毛駅」
- 「東京駅」「品川駅」から
JR京浜東北線→「大井町駅」→東急大井町線(各駅停車)→「上野毛駅」
- 「横浜駅」から
東急東横線→「自由が丘駅」→東急大井町線(各駅停車)→「上野毛駅」
- 「新横浜駅」から
東急新横浜線→「日吉駅」→東急東横線→「自由が丘駅」→東急大井町線(各駅停車)→「上野毛駅」

上野毛駅からの地図

